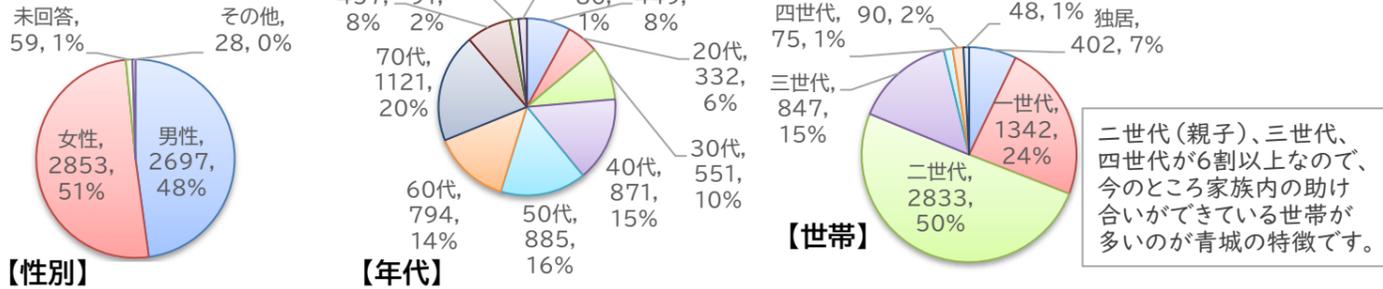


『青城地区中学生以上全住民アンケート2024結果報告(抜粋)』

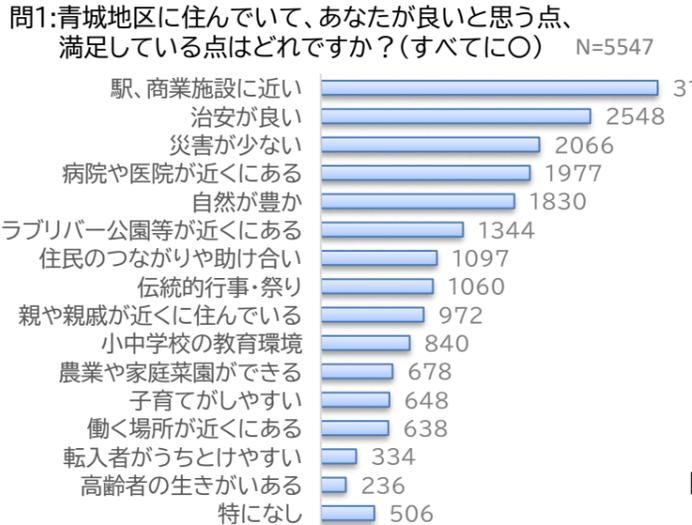
青城地区まちづくり協議会が、青城地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象に実施したアンケートの結果の抜粋です。回収率が93%と非常に高いので、ほとんどの住民の方の意見が反映されたアンケートになりました。青城地区をより住みやすい地域にするにはどうしたらいいのか考えていくための重要なデータになります。

1.回答者について

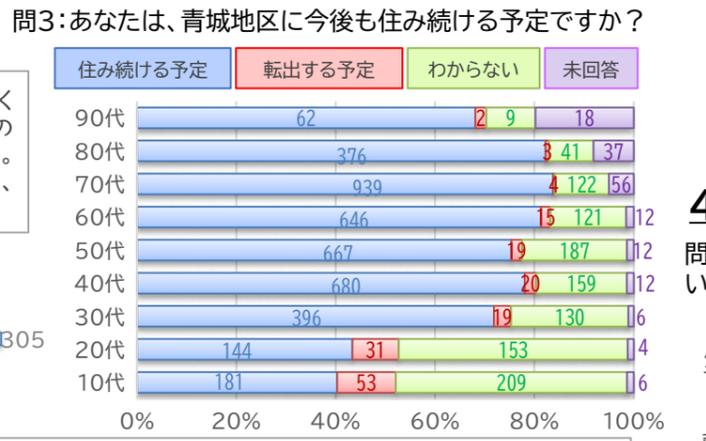
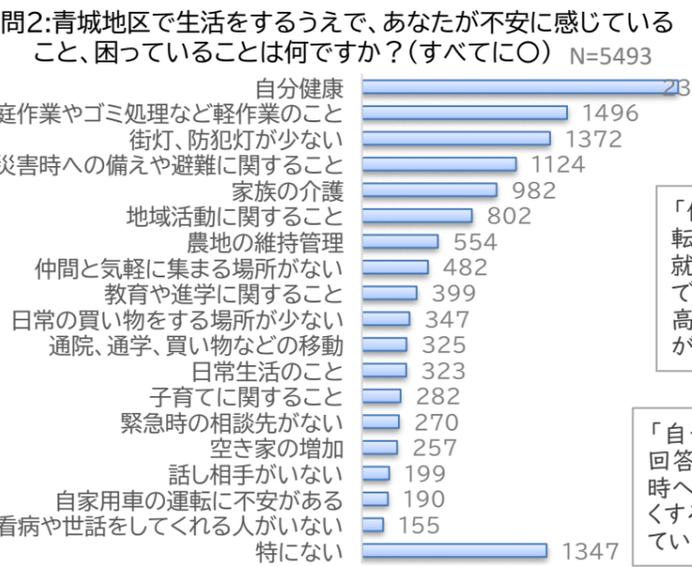


回答者の半分以上が女性、4割が40代以下なので、今までこのような地域に関するアンケートに回答する機会があまりなかった幅広い住民から回答を得ていることがわかります。

2.青城地区の生活について



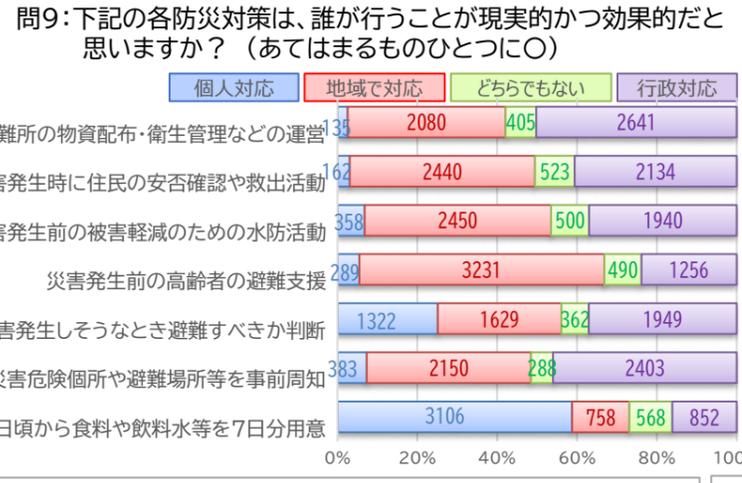
「駅商業施設に近い」「病院や医院が近くにある」「公園等が近くにある」など立地に関する項目が上位に入りました。青城地区の住民は、立地に対して満足している人が多いことがわかります。「治安が良い」「住民つながりや助け合いがある」というのは、地域コミュニティを起因とする回答でもあり、重要な視点です。



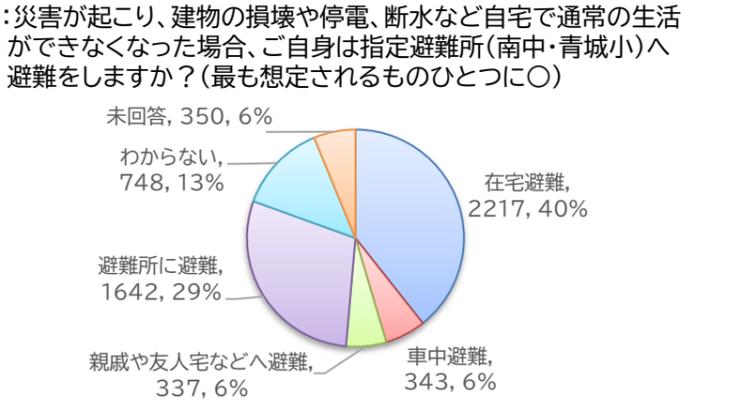
「住み続ける」と回答した人を年代別にみると、若い世代ほど転出する可能性が高いことがわかります。若い世代は、進学や就職・結婚等で転出することもやむを得ないと思われるので、若い世代が戻ってきたくなる地域づくりが必要です。逆に高齢者は住み続ける人が絶対的に多いのですから、高齢者が住み続けられる地域づくりが今後必要になってきます。

「自分の健康」「家族の介護」は、個人や家庭の問題ですが、回答数の多い「軽作業のこと」「街灯・防犯灯が少ない」「災害時への備えや避難」などは、地域住民による共助で不安を小さくすることも可能です。「地域活動に関すること」を不安に感じている人が、全体で802人いて、上位の項目となっています。

3.青城地区の防災活動について

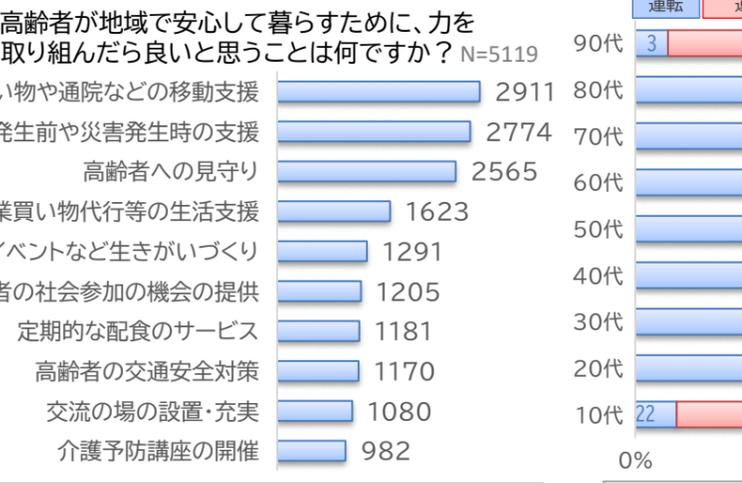


全ての項目が本来は個人や地域が主体的に行うべきものです。特に「行政」の割合が大きい「避難所運営」は、利用者や地域住民で運営するので、常時から住民の理解が必須です。大規模地震発生時は、行政支援に頼らず、地域や各家庭でやっておくこと、やれることを、今一度考え、地域住民と共有しておく必要があります。

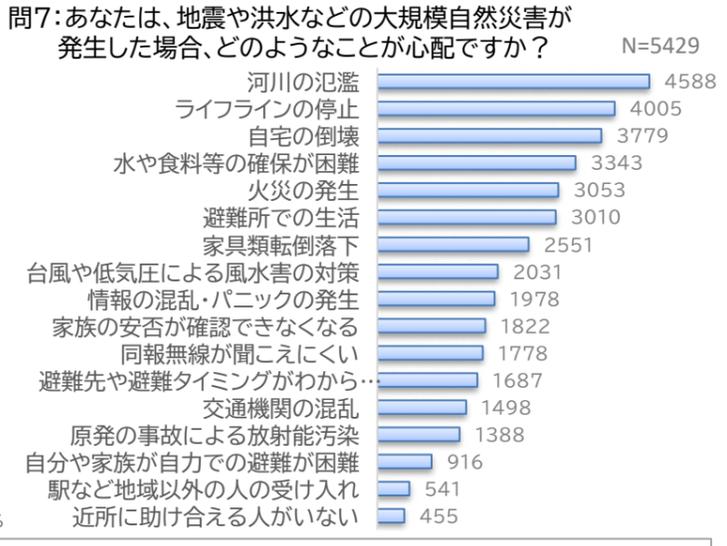


「避難所に避難する」と回答した人が1642人、29%でした。この人数が指定避難所で生活できるかを確認するとともに、大規模災害時でも在宅生活の継続が基本であることを事前に住民に伝えておく必要があります。併せて、在宅避難者や車中避難者への情報伝達、地区外避難者との連絡方法も事前に考えておく必要があります。

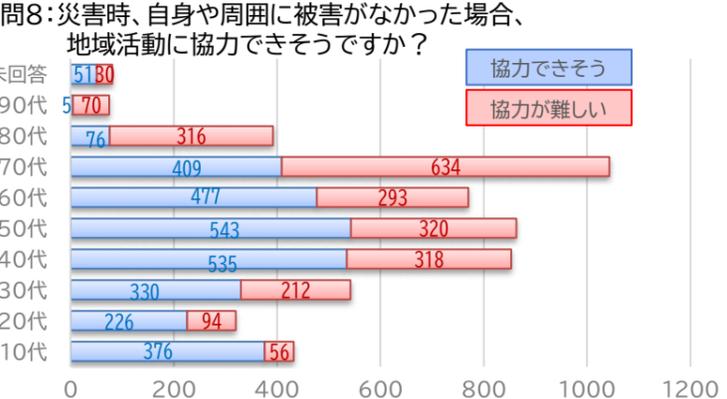
4.移動・高齢者支援について



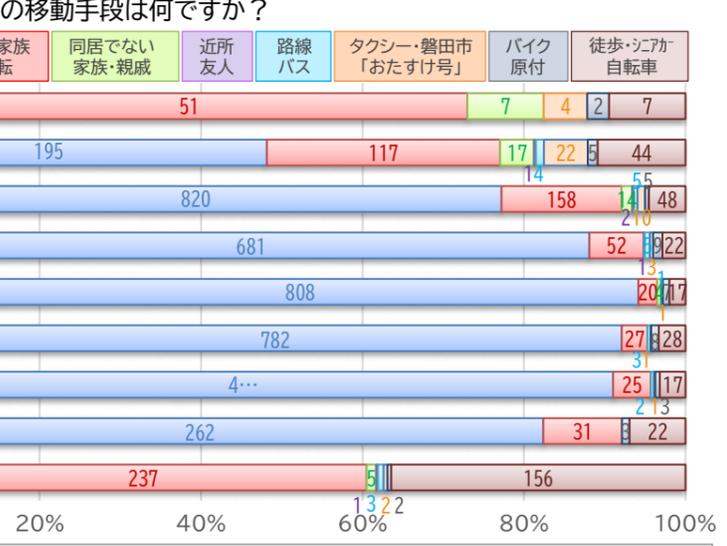
70代以上で最も多かったのは「災害発生時の支援」でした。近年、災害が頻発していることもあり、非常時を心配している高齢者が多いのではないかと考えられます。



回答が多かった「河川の氾濫」「ライフラインの停止」は、行政の整備等に期待する部分が多いのですが、次に多かった「自宅倒壊」「水食料の確保困難」は、各家庭で一定程度は備えることができます。一方、「避難所生活の不安」「情報の混乱・パニックの発生」は、地域で支えあったり、情報提供を行うことで不安の軽減が可能です。住民同士の支えあいや情報共有などのソフト面から備えていくことがとても重要です。



災害時に「協力できそう」と回答した方は54%でした。被災時は、自身の健康や会社の復旧作業、家族の世話などにより、地域の活動に協力したくてもできない方がいます。一方、10代の9割近くが、「協力できそう」と回答しており、人数では20代や30代よりも多い結果です。10代は、有事の際、活躍を期待できる貴重な人財と認識しましょう。有事の際は、年齢や性別を問わず、協力できる人が活躍できるように、事前に体制を備えておく必要があります。

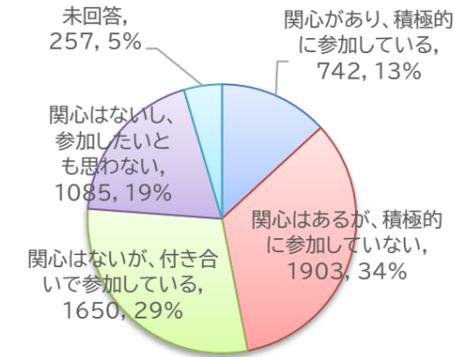


年代別にみると、30~60代までは90%近くが「自分が運転する車」ですが、80代以上になると約50%になります。今後、80代が増えていくことを考えると、移動手段を持たない人への支援も重要な課題であることがわかります。

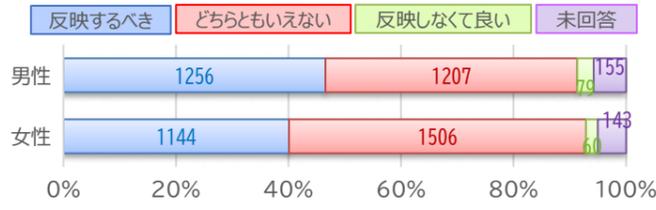
5.地域活動について

問13:地域の活動に女性や若い世代の声を、今よりも反映するべきだと思いますか？

問5:地域活動への関心と参加状況を教えてください。



関心ある人が約47%、参加している人が42%でした。参加している人の2/3以上が「関心はないが付き合いで参加」となっています。「関心があるが参加していない」と回答した人が34%でしたので、まずは、関心ある人が参加しやすい地域づくりが有効と考えられます。



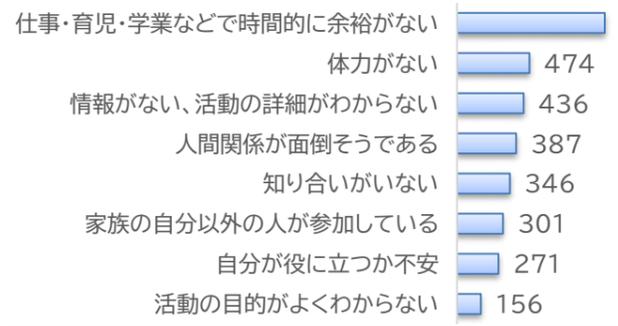
「反映すべき」が43%で、「反映しなくてもよい」は、ごく少数でした。男女別にみると、若干、男性の方が「反映すべき」と考えている人が多い結果でした。

問14:子どもの健全育成のために、青城地区として、力をいれて取り組んだら良いと思うことは何ですか？



「登下校時の見守り」が最も多い回答でした。世代を超えて地域全体で子どもを見守る体制の構築が望まれます。続いて「子どもの居場所づくり」でしたが、問4の活動の過不足でも、10-20代では、「子どもの居場所づくり」が上位にありましたので、望まれている活動といえそうです。

問5-2「(イ)関心はあるが、積極的に参加していない」を選んだ理由を教えてください。



回答のうち、「情報が無い・活動詳細がわからない」「自分以外の家族が参加している」との回答は、活躍できる人を活かしていない可能性があります。情報共有をしっかり行い、参加したい人が参加できる体制が必要です。

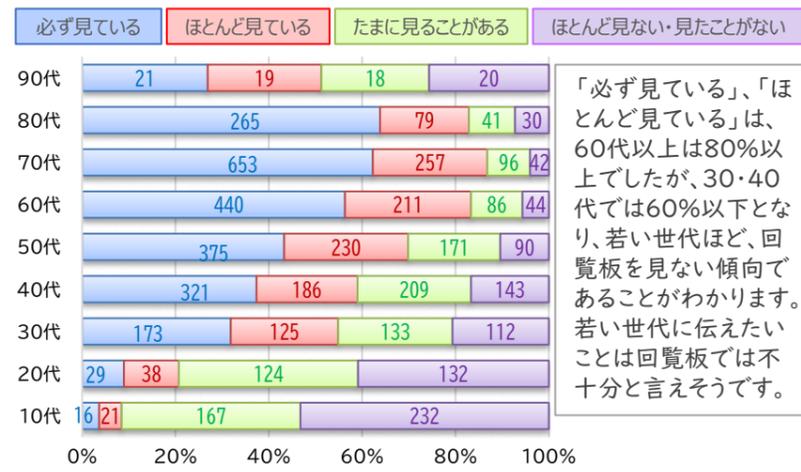
問4:青城地区で行っている・今後行うべきと20の地域活動の[重要度]-[満足度]を求め、不足の度合いを年代別にしました。

活動が不足 重要なのに満足していない	順位	10-20代		30-50代		60-70代		80代以上	
		重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度
活動が されている 満足度が高い	1	子どもの居場所づくり活動	32.8	IT活用で住民向けの広報連絡	53.4	移動支援活動	56.2	移動支援活動	56.4
	2	不安や悩みが相談できる場所	29.1	移動支援活動	49.9	高齢者生活支援活動	51.9	農地維持や荒廃農地解消	47.9
	3	防災活動	27.6	子どもの居場所づくり活動	49.4	農地維持や荒廃農地解消	51.3	高齢者生活支援活動	46.8
	4	IT活用で住民向けの広報連絡	24.9	高齢者生活支援活動	43.9	不安や悩みが相談できる場所	47.5	防災活動	46.2
	5	移動支援活動	23.5	不安や悩みが相談できる場所	39.2	防災活動	46.8	不安や悩みが相談できる場所	42.3
	6	子育て支援活動	22.8	防災活動	38.7	子どもの居場所づくり活動	43.9	消防活動	39.7
	7	消防活動	22.7	農地維持や荒廃農地解消	36.5	防犯活動	43.6	子どもの居場所づくり活動	36.8
	8	防犯活動	19.2	防犯活動	33.7	消防活動	41.7	防犯活動	35.9
	9	高齢者生活支援活動	19.2	子育て支援活動	33.5	子育て支援活動	30.4	子どもの安全を支える活動	28.0
	10	農地維持や荒廃農地解消	19.2	消防活動	32.5	IT活用で住民向けの広報連絡	30.0	美化・環境保全活動	27.0
	11	子どもの安全を支える活動	17.2	子どもの安全を支える活動	25.4	子ども会など子ども対象活動	29.4	子育て支援活動	26.8
	12	美化・環境保全活動	13.6	美化・環境保全活動	20.7	子どもの安全を支える活動	28.8	子ども会など子ども対象活動	21.7
	13	子ども会など子ども対象活動	11.8	子ども会など子ども対象活動	14.5	美化・環境保全活動	26.8	交通安全に関する活動	21.5
	14	高齢者対象行事	10.7	高齢者対象行事	13.4	回覧板など地区内情報共有	21.6	回覧板など地区内情報共有	17.9
	15	生涯学習や生きがいづくり活動	4.0	回覧板など地区内情報共有	12.2	交通安全に関する活動	17.8	IT活用で住民向けの広報連絡	14.6
	16	回覧板など地区内情報共有	3.0	健康づくり活動	8.4	健康づくり活動	17.4	高齢者対象行事	12.6
	17	健康づくり活動	2.2	生涯学習や生きがいづくり活動	7.0	生涯学習や生きがいづくり活動	14.7	健康づくり活動	12.0
	18	交通安全に関する活動	-1.6	交通安全に関する活動	1.9	高齢者対象行事	12.1	生涯学習や生きがいづくり活動	8.3
	19	地域スポーツ大会など体育行事	-3.9	祭りなどのイベントや祭典	-19.1	地域スポーツ大会など体育行事	-6.4	地域スポーツ大会など体育行事	2.9
	20	祭りなどのイベントや祭典	-4.5	地域スポーツ大会など体育行事	-22.9	祭りなどのイベントや祭典	-8.3	祭りなどのイベントや祭典	-5.3

年度内に今回のアンケート結果の解説冊子を作成し、全戸に配付する予定です。

活動の過不足度を年代別で集計すると、高齢世代は「移動支援」が不足度が一番でしたが、若い世代は「IT活用での住民広報」や「子どもの居場所づくり」が上位にあり、世代間のギャップが大きくなりました。一方、「体育行事」「秋祭りなどイベント」は、どの世代でも活動が十分に出来ているという結果でした。

【情報伝達について】 問11:回覧板を見ているか？(ひとつに○) 問12:情報伝達手段は何かいいと思いますか？(すべてに○)



「必ず見ている」、「ほとんど見ている」は、60代以上は80%以上でしたが、30・40代では60%以下となり、若い世代ほど、回覧板を見ない傾向であることがわかります。若い世代に伝えたいことは回覧板では不十分と言えます。

問18:犯罪や交通事故から地域住民を守るために、力をいれて取り組んだら良いと思うことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)



「交通安全」よりも「防犯活動」が多い傾向でしたので、犯罪被害などの不安を感じている人が多い可能性があります。全体的に実効性が高い物理的な改善を求める意見が多いことから、どの場所が有効なのか地域で検討し、優先順位をつける必要があると言えます。

年代別にみると、40代以下では、回覧板よりもLINEが良いと回答した人が多くなりました。回覧板を見ない人でも、LINEならば見る可能性があるため、回覧板とLINEの併用が有効かもしれません。

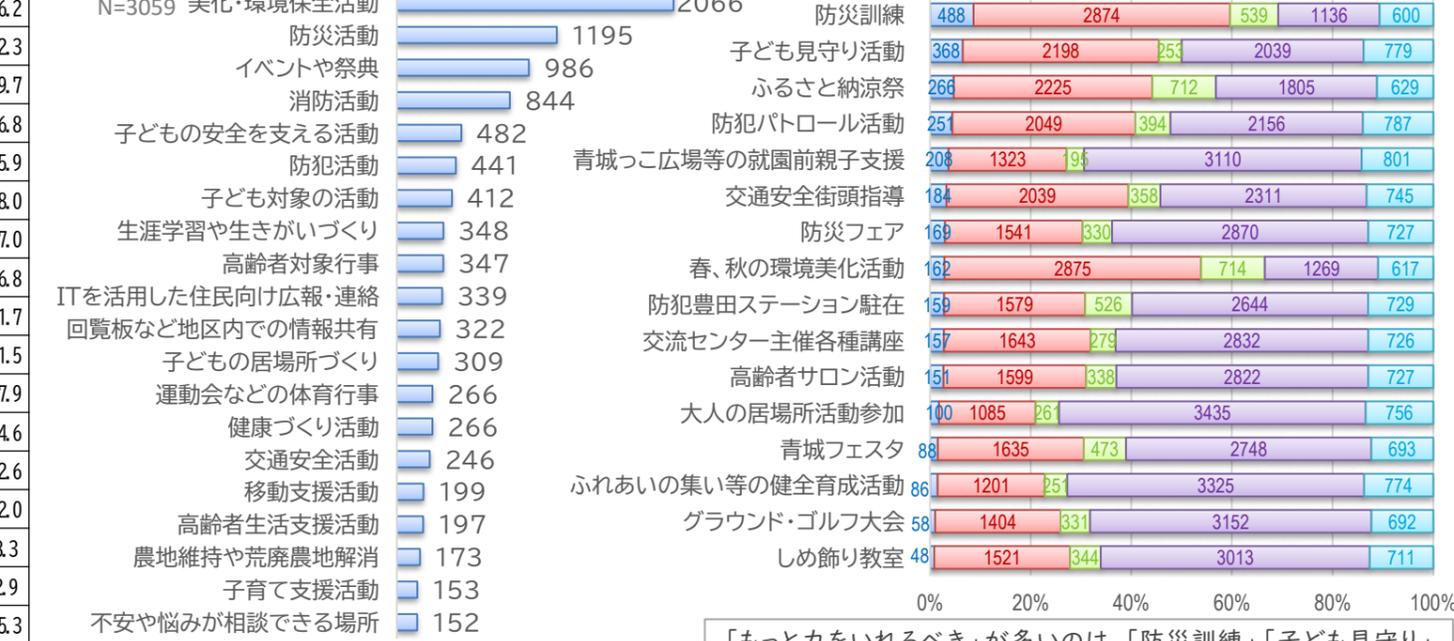
問16:敬老会について今後、どのようにしたら良いと思いますか？



半数以上が「今のままでよい」との回答ですが、36%の人は「変えた方が良い」でした。年代で大きな差はありませんでした。

問8:青城地区で、現在実施されている以下の行事や活動について、どうするべきだと思いますか？(それぞれひとつに○)

問4:以下に協力できる活動はありますか？(すべてに○)



「もっと力をいれるべき」が多いのは、「防災訓練」「子ども見守り」「ふるさと納涼祭」「防犯パトロール」で、住民の暮らしの安全安心に直結する活動に力をいれるべきという結果でした。「ふるさと納涼祭」「環境美化活動」については、「もう少し簡素化・見直しすべき」の回答が多く、運営や準備に負担を感じている人が多いかもしれません。

住民の多くが、協力する意思があることがわかります。若い世代が不足感を感じていた「ITを活用した広報」「子どもの居場所づくり」には、それぞれ300人以上が協力できるという回答があったことは、これからの活動に非常に期待できると言えます。